

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ライバル	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.045	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **5 1/4** インチ

研磨剤

番

比較対照ボール：ビックショット

フレアーの幅 インチ

表面加工

箱出し状態

加工

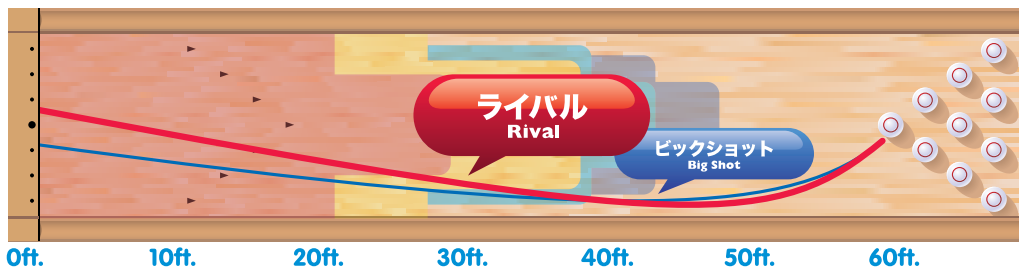
ペーパー

ポリッシュ

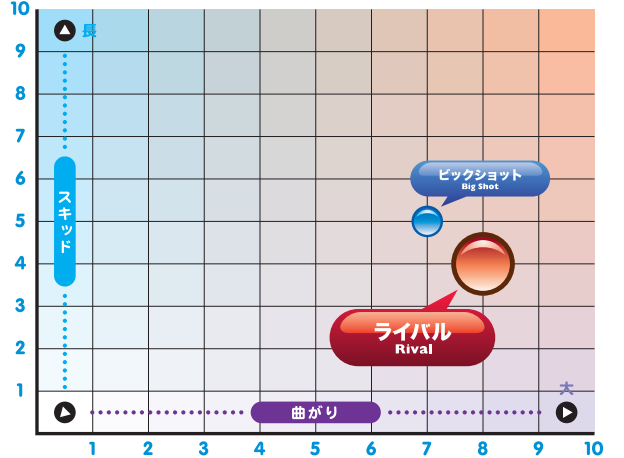
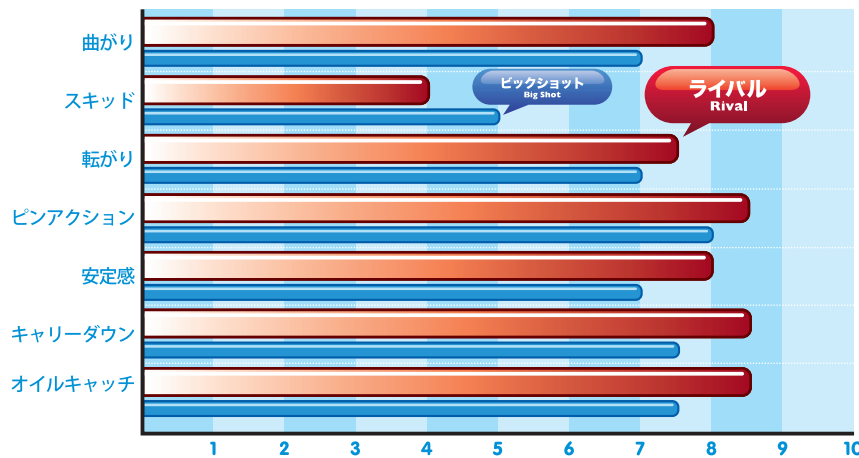
PAPからピンとの距離 **5 1/4** インチ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バック



レーンコンディション					バックエンドリアクション					レンジス				
Light Oil	Light to Medium	Medium Oil	Medium to Heavy	Heavy Oil	Smooth	Smooth to Arc	Arc	Arc to Sharp	Sharp Angle	Early Roll	Early to Med	Med-Lane	Med to Late	Late Roll

ボールの評価

2007年8月13日コロンビアが全世界共通でリサージェンスと共に発売するもう一つのボールがこのライバル。トラックを含め同時発売される3つのボールの中では最も軸で使用することができ、幅広いコンディションで対応可能なボールに仕上がっています。投球したイメージは中間層のスキッドと、それでいてメリハリのあるシャープなバックエンドリアクションを得られる感じがしました。対応コンディショナルにはミディアムコンディション以上で使用でき、フレア幅も6インチに及びます。手前のオイルを有効活用し、**オイルを長く使うほどバックエンドリアクションは切れるイメージが強くなり、それでいて扱いづらい曲がり方でないのがこのライバルの最大の特徴です。**日本でもお馴染みのコロンビア・プロスタッフであるクリス・バーンズの話聞いたところ、このボールに使用されている 300 Reactive と Spinner コアの組み合わせは彼が一番信頼できる性能であり、箱出しのまま・ポリッシュ・サディングとさまざまな表面加工とレイアウトを用い、プロツアーに参戦するつもりだと聞きました。ポテンシャルは違えど、彼が以前大半の賞金を稼ぎ出したビック・ブーリー (日本名：ビック・バスター) に引けを取らないほど、その総合的なポテンシャルは高い域にあるということでしょう。幅広いコンディションで安定したポテンシャルを感じながらも攻撃的にラインを攻める。その中であなたは「ライバル」との差を広げることができるでしょう。

特記事項

滴を持して登場した世界のクリス・バーンズも認めた折り紙つきのコロンビア・スタンダードモデル。オイル上の安定感と攻撃的なリアクションが高いレベルで完成されています。